

▼ 2005/01	ソート順 ▼ 解析日	データの表示 CSV出力 [設定] 手動計算 開じる
クリア	クリア	

(カ) 菌異常集積集計(再集計の設定=手動計算の設定)が開きます。下のカレンダーをクリックすると右側の集計日のリストに日付が入ります。期間で指定の日付の部分ダブルクリックするとカレンダーが出て期間指定の開始日終了日を指定できます。設定を押すと期間内のそれぞれの日付が集計日のリストに入ります。菌の異常集積再集計ボタンを押すと、集計が始まります。通常は、baseline rate は選ばないでおくので(全てのbaseline rate で計算する)良いでしょう。特定の baseline rate だけ再計算すればいいときは指定して下さい。新しいバージョンがリリースされたときは、再計算する必要があるか、開発元に問い合わせして下さい。

菌異常集積 集計																																																			
集計日を期間で指定 2004/06/28 ~ 2006/01/29 [設定]	集計日数: 581 2004/06/28 2004/06/29 2004/06/30 2004/07/01 2004/07/02 2004/07/03 2004/07/04 2004/07/05 2004/07/06 2004/07/07 2004/07/08 2004/07/09 2004/07/10 2004/07/11 2004/07/12 2004/07/13 2004/07/14 2004/07/15 2004/07/16	baseline rate ▼ 菌異常集積 再集計																																																	
集計日を個別で指定 2006 ▼ 1 ▼ <table border="1"> <tr><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th><th>日</th></tr> <tr><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td><td>30</td><td>31</td><td>1</td></tr> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td></tr> </table> ■ 集計済み <input type="checkbox"/> 未集計 <input type="checkbox"/> 集計対象日	月	火	水	木	金	土	日	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29			1	2	3	4	5	設定した 日付を全削除	開じる
月	火	水	木	金	土	日																																													
26	27	28	29	30	31	1																																													
2	3	4	5	6	7	8																																													
9	10	11	12	13	14	15																																													
16	17	18	19	20	21	22																																													
23	24	25	26	27	28	29																																													
		1	2	3	4	5																																													

(キ) 警告レベル(閾値)の設定も、簡単にできるようになりました。

警告レベルの設定	
LEVEL3	0.001
LEVEL2	0.005
LEVEL1	0.02
LEVEL設定	

(ク) 適切な抽出条件で抽出します。

自施設の baseline rate で集計する場合は、その baseline rate だけを選びます。集計単位は通常は患者単位だけで良いでしょう

抽出条件の設定

集計単位 <input checked="" type="checkbox"/> 患者単位 <input type="checkbox"/> 検体単位 <input type="checkbox"/> JANIS ※ JANIS準拠	集計期間 <input checked="" type="checkbox"/> 7日間 <input checked="" type="checkbox"/> 14日間 <input checked="" type="checkbox"/> 30日間	LEVEL <input checked="" type="checkbox"/> LEVEL1 <input checked="" type="checkbox"/> LEVEL2 <input checked="" type="checkbox"/> LEVEL3	表示対象期間 開始日 2006/01/24 終了日 2006/01/31 開始日~終了日が 解析日 を含む	病種名 クリア	baseline rate 院内-患者単位 2005/01/01~2005/12/31 クリア	ソート順 解析日 クリア	データの表示 <input type="checkbox"/> CSV出力 <input type="checkbox"/> 設定 <input type="checkbox"/> 手動計算 <input type="button" value="閉じる"/>
--	---	---	--	------------	---	--------------------	--

表示は、自由にソートをすることができます。

(ケ) ベースラインレートの入出力閲覧を行うにはそれぞれの部分でプルダウンメニューでベースラインレート名 (BLR 名称と書いてある) を選んで下さい。

<p>baseline rateの編集</p> <p>編集するbaseline rateの選択 院内-患者単位 2005/01/01~2005/12/31</p> <p>基本情報 BLR名称 院内-患者単位 2005/01/01~2005/12/31 備考</p> <p><input type="button" value="基本情報更新"/> <input type="button" value="baseline rate削除"/></p> <p>菌一覧</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>菌△</th> <th>菌名△</th> <th>出現率△</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1015</td><td>Yeasts</td><td>0.164179</td></tr> <tr><td>1101</td><td>α-Streptococcus</td><td>0.33582</td></tr> <tr><td>1102</td><td>β-Streptococcus</td><td>0.007462</td></tr> <tr><td>1103</td><td>γ-Streptococcus</td><td>0.054726</td></tr> <tr><td>1114</td><td>Streptococcus agalactiae</td><td>0.02985</td></tr> <tr><td>1123</td><td>G群β-Streptococcus</td><td>0.004975</td></tr> <tr><td>1132</td><td>Streptococcus pneumoniae (PRSP)</td><td>0.002467</td></tr> <tr><td>1133</td><td>Streptococcus pneumoniae (PSP)</td><td>0.007462</td></tr> <tr><td>1134</td><td>Streptococcus pneumoniae (PSSP)</td><td>0.014925</td></tr> </tbody> </table> <p>菌コード 1132 Streptococcus pneumoniae (PRSP) 出現率 0.002467 <input type="button" value="菌情報更新"/> <input type="button" value="菌情報削除"/></p> <p>菌検索 菌コード <input type="text"/> <input type="button" value="クリア"/> 菌名 <input type="text"/> <input type="button" value="検索"/></p>	菌△	菌名△	出現率△	1015	Yeasts	0.164179	1101	α-Streptococcus	0.33582	1102	β-Streptococcus	0.007462	1103	γ-Streptococcus	0.054726	1114	Streptococcus agalactiae	0.02985	1123	G群β-Streptococcus	0.004975	1132	Streptococcus pneumoniae (PRSP)	0.002467	1133	Streptococcus pneumoniae (PSP)	0.007462	1134	Streptococcus pneumoniae (PSSP)	0.014925	<p>baseline rateの入出力</p> <p>出力するBLR名称 院内-患者単位 2005/01/01~2005/12/31</p> <p>CSVファイル入力 <input type="button" value="CSVファイル出力"/></p> <p>baseline rateの作成</p> <p>開始日 2004/06/28 終了日 2006/01/30 デフォルト値設定 BLR名称 院内-2004/06/28~2006/01/30 備考</p> <p>集計単位 <input checked="" type="radio"/> 患者単位 <input type="radio"/> 検体単位 <input type="radio"/> JANIS</p> <p><input type="button" value="baseline rate作成"/></p> <p>警告レベルの設定</p> <p>LEVEL3 0.001 LEVEL2 0.005 LEVEL1 0.02 <input type="button" value="LEVEL設定"/></p> <p><input type="button" value="閉じる"/></p>
菌△	菌名△	出現率△																													
1015	Yeasts	0.164179																													
1101	α-Streptococcus	0.33582																													
1102	β-Streptococcus	0.007462																													
1103	γ-Streptococcus	0.054726																													
1114	Streptococcus agalactiae	0.02985																													
1123	G群β-Streptococcus	0.004975																													
1132	Streptococcus pneumoniae (PRSP)	0.002467																													
1133	Streptococcus pneumoniae (PSP)	0.007462																													
1134	Streptococcus pneumoniae (PSSP)	0.014925																													

新しい機能が皆様のお役に立つように願っています。

平成 18 年 2 月 2 日(木)

群馬大学大学院医学系研究科生体防御機構学講座細菌感染制御学 藤本 修平

中小規模病院・感染監視システム

院内機能操作手順書

(Ver.1.30)

2006年 3月

1.	概要	5
2.	ご注意	5
	I. 画面構成について	5
	II. 動作環境	5
	III. システム使用上のご注意	5
3.	システムの起動と終了	6
	I. 院内機能プログラムの起動	6
	II. 院内機能プログラムの終了	6
4.	各機能における共通の概念や操作	7
	I. 集計単位	7
	① 患者単位	7
	② 検体単位	7
	③ JANIS	8
	④ JANIS準拠重複排除	9
	II. 問題菌	11
	III. 常在菌	11
	IV. 検査データにおける病棟と診療科の扱い	12
	V. 日付の設定方法	13
	VI. 抽出条件における「検査材料」「菌」「薬剤」の設定方法	15
	① 選択画面の表示	15
	② 選択画面	15
	③ 選択済みリストへの移動～設定	17
	④ 検索機能(検査材料)	18
	⑤ 検索機能(菌)	18
	⑥ 検索機能(薬剤)	18
5.	メニュー画面	19
6.	日計表機能	20
	① 日計表の入力画面	21
	② 入力日の指定	21
	③ 日計表の入力	22
	④ グラフによる推移表示	22
	⑤ 日計表の帳票表示	23
	⑥ 日計表のCSV出力	24
	⑦ 日計表のCSV入力	24
	⑧ 日計表のCSVファイルフォーマット	25
7.	検査データ解析機能	26
	I. 検査データ解析メニュー	26
	II. 菌異常集積機能	27
	① 「菌異常集積」とは	27

② 「菌異常集積」の基本概念	27
③ 菌異常集積画面	28
④ 解析結果の表示(抽出条件の設定)	30
⑤ 解析結果データのファイル出力	34
⑥ 確率の再計算	35
⑦ 菌異常集積 設定(baseline rateの作成・編集・入出力、警告LEVELの設定)	39
⑧ baseline rateの作成	40
⑨ baseline rateの編集及び削除	41
⑩ baseline rateの入出力	44
⑪ 警告レベルの設定	47
III. PDIによる傾向解析機能	48
① PDI解析メニュー画面	48
② 基本項目の設定	49
③ 抽出条件の設定	50
④ PDI解析の実行	51
⑤ PDIデータ解析画面	52
⑥ グラフの見方	52
⑦ グラフ設定項目	53
⑧ グラフの切り替え	53
IV. 院内感染状況マップ機能	54
① 院内感染状況マップ画面	54
② 各「病棟」の表示内容	55
③ 表示内容の設定	56
④ 表示内容の更新と問題菌、起因菌における陽性リスト	57
V. 年間推移表機能	60
① 「年間推移表」とは	60
② 出力項目の指定	61
③ 抽出条件の指定	62
④ グラフの表示	63
⑤ その他の機能ボタン(グラフコピー・印刷・閉じる)	63
8. 集計表機能	64
I. 集計表メニュー(抽出条件・帳票の選択)	65
① 抽出条件の指定	65
② 年齢表示の指定	66
③ 集計単位の指定	66
II. 各集計表について	67
① 病棟別分離菌	67
② 年齢別分離菌	67
③ 診療科別分離菌	67
④ 検査材料別分離菌	67

⑤	感染状況レポート	67
⑥	菌種別感受性分布	67
⑦	菌種別MIC分布	67
9.	検査データ修正機能	68
I.	検査データの検索～表示	69
①	検査データの検索	69
II.	検査データの新規登録	70
①	患者基本データ	71
②	感染症データ	72
③	抗菌薬データ	73
④	基礎疾患に関するデータ	74
⑤	デバイスデータ	75
⑥	検体データ	76
⑦	菌データ	77
⑧	退院サマリデータ	78
⑨	予備拡張領域	78
⑩	検査項目データ	79
III.	検査データの修正	80
IV.	検査データの削除	80
10.	メンテナンス機能	81
I.	施設情報の登録	82
II.	検査データ上書き禁止項目の設定	83
III.	病棟情報の設定	84
①	表示の基準の設定	85
②	病棟の新規登録・更新	87
③	病棟の削除	88
④	登録一覧のソート	89
⑤	診療科の登録	89
⑥	診療科情報設定	89
⑦	マップ用病棟情報設定	89
IV.	診療科情報の設定	90
①	診療科の追加・変更	91
②	診療科の削除	92
11.	お問い合わせ	93

1. 概要

- 本システムは、全国サーベイランスの対象となっていない中小規模(100～200 床)の病院を対象に、検査室をコントロールタワーとした効率の良い院内感染サーベイランスシステムを構築し、病院内スタッフの院内感染に対する知識や対応などのレベルアップを図ることを目的とする。
- 検査会社での検査結果データを同社内 PC に保存すると、病院内の本システムから取得して内容のチェックを行い DB に取り込む処理を自動的に実施する。この際のエラー情報なども、取り込み結果として検査会社内 PC に自動的に保存する。(自動入力機能)
- 前項により取り込んだ検査結果データを閲覧または修正することができ、日計表データなどを補完することにより、各種の解析表等を表示、印刷できる。(院内機能)

2. ご注意

I. 画面構成について

- ご利用のシステム装置により、画面構成等が異なる場合があります。詳細はご利用機器のマニュアル等を参照願います。

II. 動作環境

本システムの動作環境として、以下のシステムが必要となります。

- システム装置(Microsoft Windows 対応)
- オペレーティングシステム(Windows2000Professional 以降推奨)
- Microsoft SQLserver2000
- Microsoft Access2003
- Microsoft Excel2003

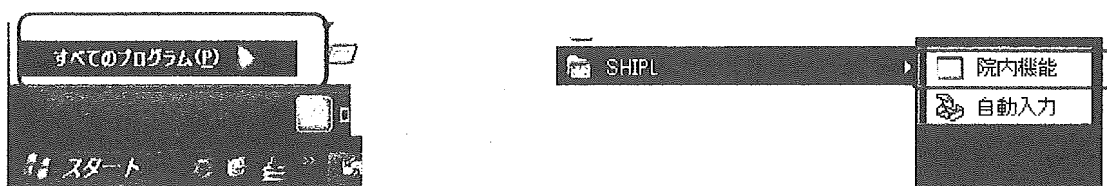
III. システム使用上のご注意

- 菌異常集積の集計に Microsoft Excel の機能を使用しています。院内機能「菌異常集積 確率の再集計」、自動入力機能「日次集計」実行中に、Microsoft Excel を使用している場合、稀に動作エラーが発生します。これらの機能をご利用中は、システム装置内での Microsoft Excel のご利用をお控えいただけますようお願いいたします。また、エラー発生時にはダイアログの「OK」ボタンをクリックし、エラー発生時の日付から再度集計を行いますようお願いいたします。(エラー発生以前に処理した日付の集計分に関しては再度集計を行う必要はございません。)
- 院内機能各機能において、「グラフをコピーする」という機能があります。Microsoft Excel にグラフを貼り付ける場合、①Microsoft Excel を起動 ②グラフをコピー ③Microsoft Excel ファイルへグラフを貼り付けの順に操作願います。Microsoft Excel の仕様上、Microsoft Excel 起動前のグラフオブジェクトのコピーは認識されません。

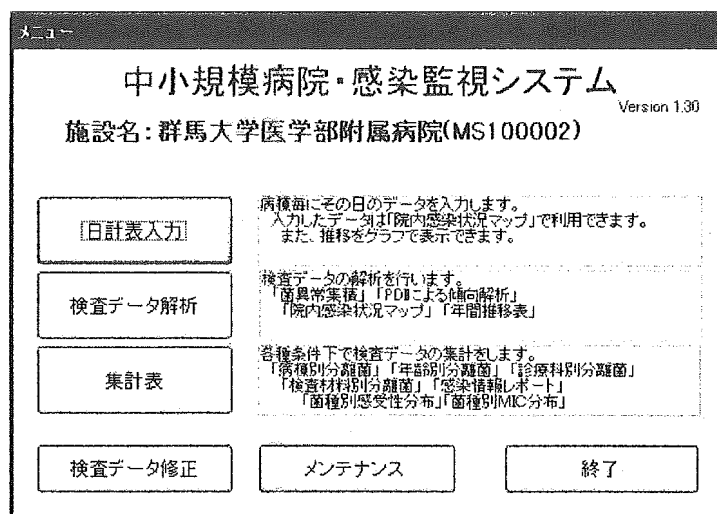
3. システムの起動と終了

I. 院内機能プログラムの起動

「スタート」メニューより「すべてのプログラム(P)」を選択し、一覧より「SHIPL」→「院内機能」を選択します。



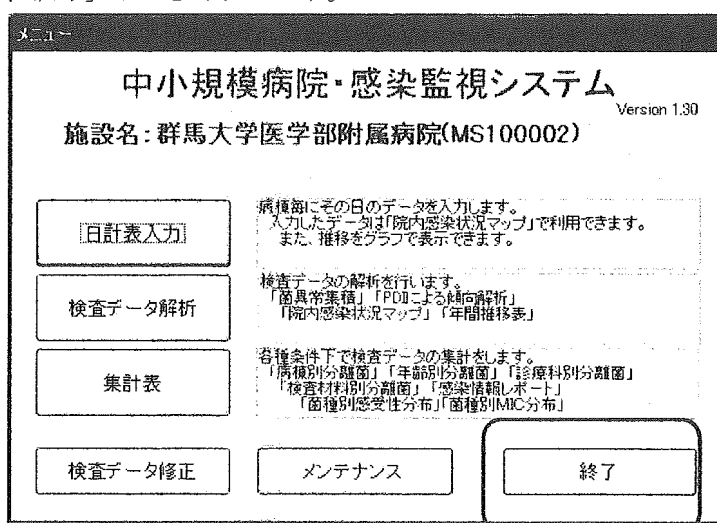
メニュー画面が表示されます。



※施設名欄に「施設コードが未登録です」の表示が出る場合、「メンテナンス」、「施設情報登録」から当該施設の選択/設定を行ってください。

II. 院内機能プログラムの終了

メニュー画面より、「終了」ボタンをクリックします。



4. 各機能における共通の概念や操作

I. 集計単位

「集計単位」とは、集計を行う上での基準となる「数え方」です。

集計単位は主に4種類あります。

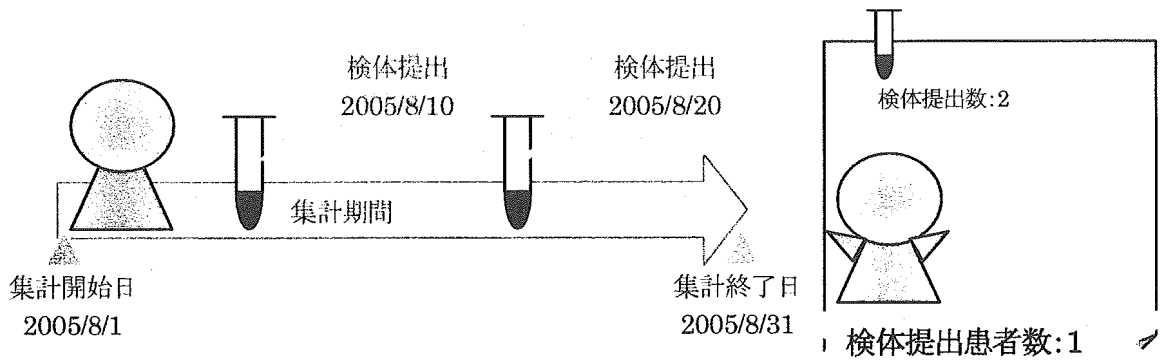
① 患者単位

集計の基準を「患者」とした数え方で、データ項目「ID」に注目した集計方法です。

具体的な基準は以下の2点で

- 「ID」が未入力の場合は、提出されたそれぞれの検体を1患者と数えます。
- 「ID」の入力がある場合は、「ID」が同じデータに関して集計期間において、検体提出が複数回あっても1患者と数えます。

集計期間内に検体の提出が何回あったとしても、「患者単位」として集計を行った場合は「ID」が同じ検体データに対しては1人と数えます。



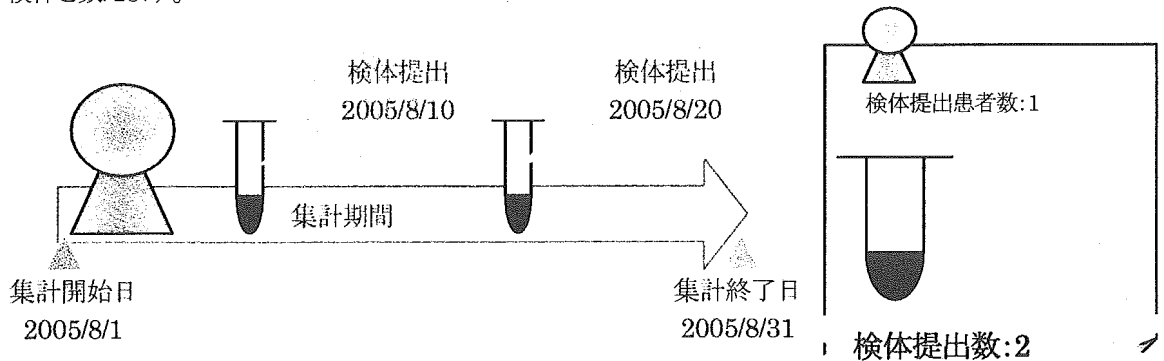
② 検体単位

集計の基準を「検体」とした数え方で、データ項目「検体番号」に注目した集計方法です。

具体的な基準は以下の1点で

● 「検体番号」に注目し、1検体と数えます。

提出された検体の数が基準となりますので、同じ患者(同じ「ID」)からの検体であったとしても、それぞれを1検体と数えます。



③

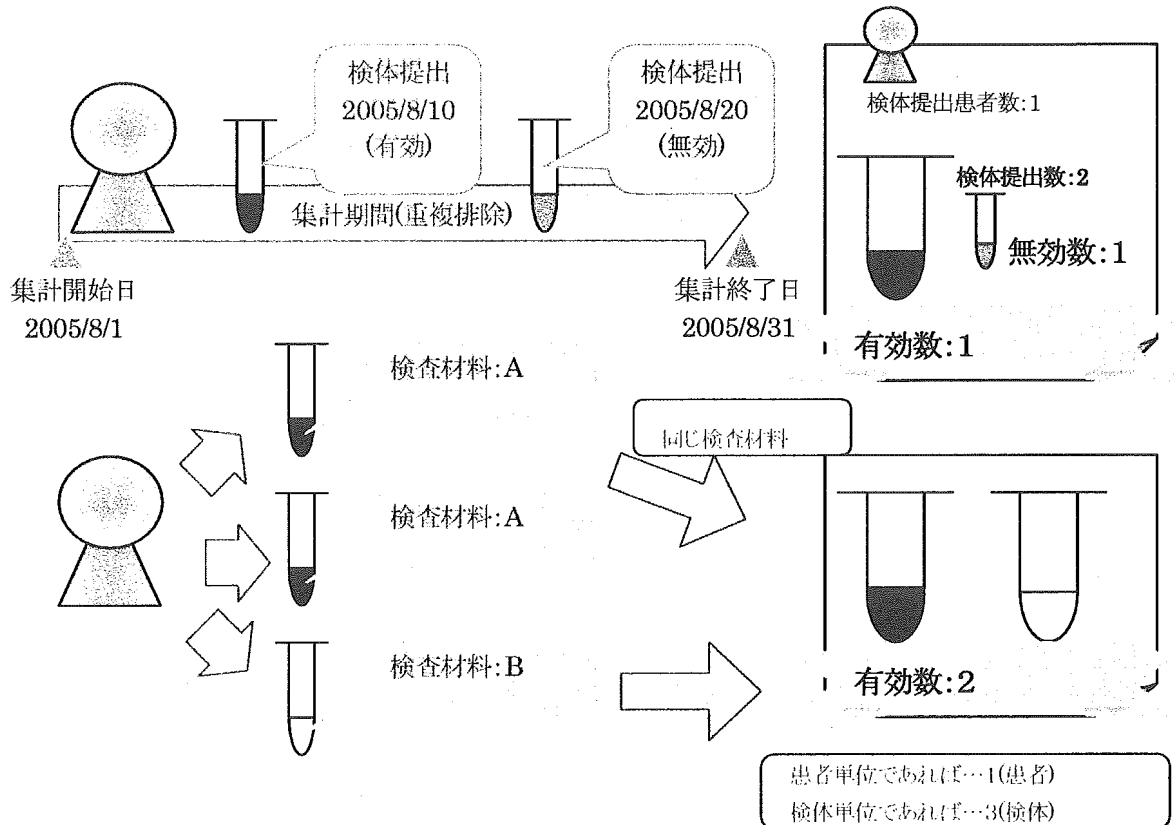
JANIS

厚生労働省事業 院内感染対策サーベイランス(以下 JANIS)準拠の重複排除方法を採用した集計方法です。

具体的な基準は以下の2点で

- 「JANIS 準拠の重複排除」を行う。
- 有効なデータに対し、患者毎、検査材料毎の集計を行う。

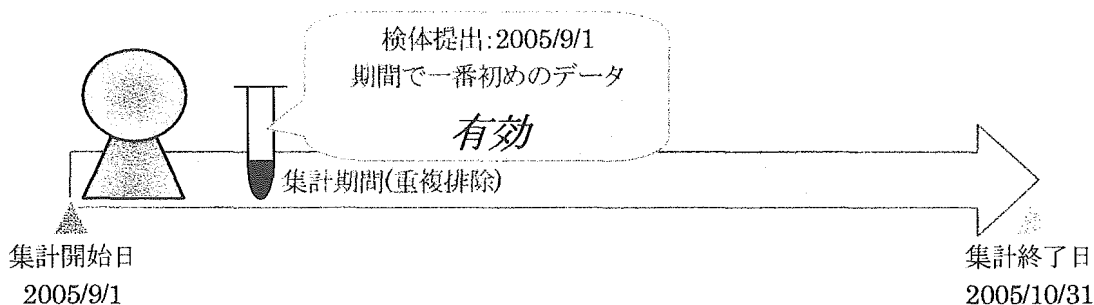
「JANIS 準拠の重複排除」を行った後の集計は「患者単位」と似ています。「ID」が同じ検体データは集約して数えます。しかし、「患者単位」と異なるのは、「検査材料」が異なった場合は別の有効数となります。



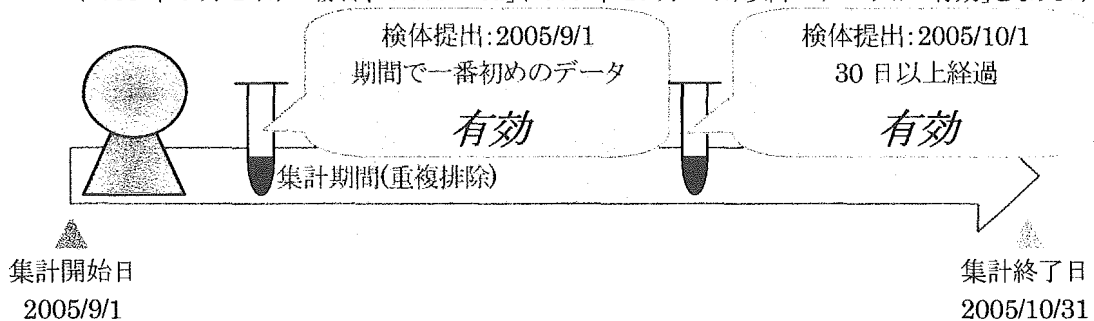
④ JANIS準拠重複排除

SHIPL における集計単位「JANIS」では、JANIS検査部門で採用されている重複排除方法を実装しています。

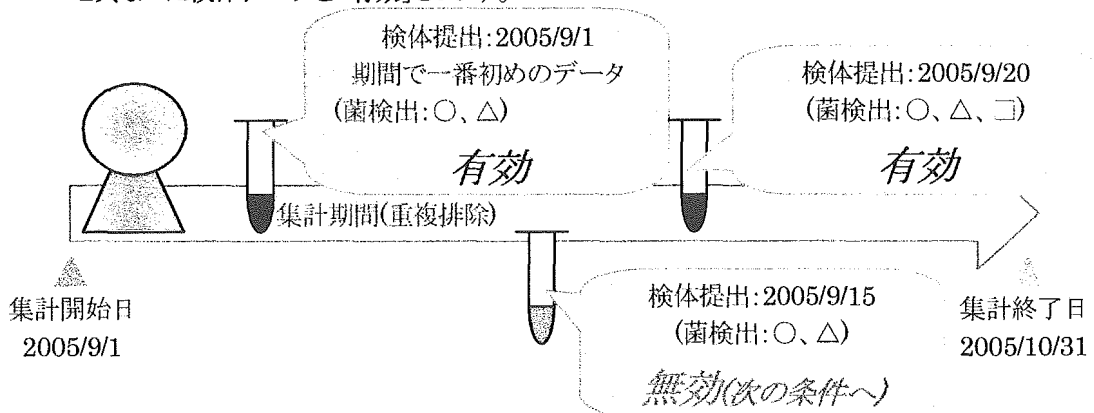
- 「ID」が未入力の場合、検体データのそれぞれを「有効」とします。
- 「ID」が入力されている検体データについて、「ID」及び「検査材料名」が同じ検体データについては、以下の条件により有効、無効を判断します。ただし、先に書かれた条件が優先順位としてより上位となります。
 - ・ 同じ「ID」の検体データで、集計期間において「検体提出日」が一番小さいデータを「有効」とします。すなわち、集計期間において一番初めに提出された検体を「有効」とします。



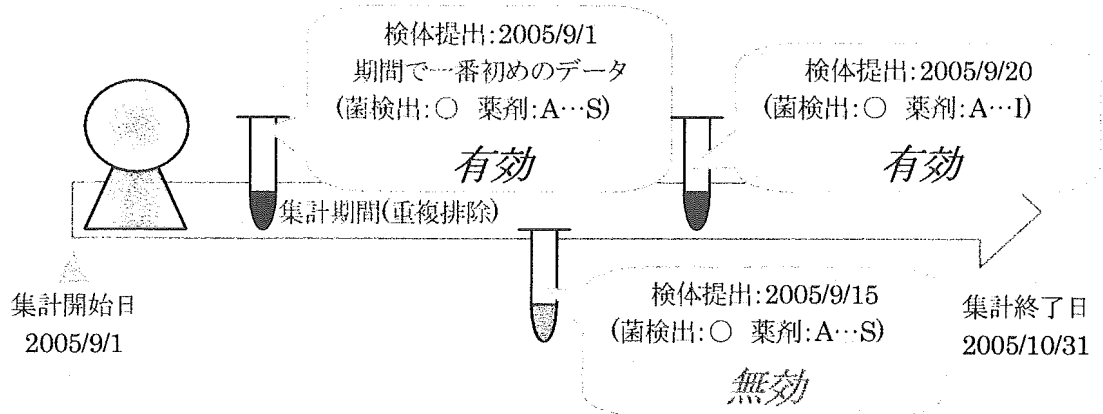
- ・ 2 番目以降に提出された検体について、直前の有効データより「検体提出日」30日以上経過した検体データを「有効」とします。具体的には、直前の有効データの「検体提出日」が「20050901」（2005年9月1日）の場合、「20051001」（2005年10月1日）以降のデータが「有効」となります。



- ・ 直前の有効データより「検体提出日」が30日未満の場合、直前の有効データまでの菌の検出内容と異なった検体データを「有効」とします。

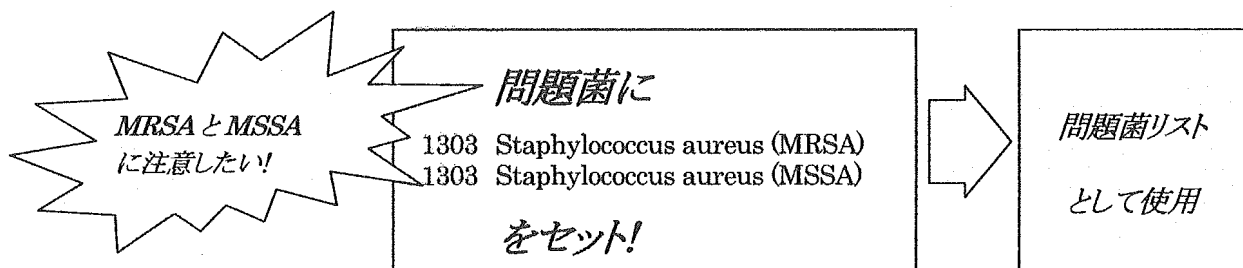


- 菌の検出状況も同じの場合、薬剤の感受性結果(「判定区分」より判断し、「判定 SIR」「判定 PLUS」の各項目を使用)が異なる検体データを「有効」とします。本判定の結果、薬剤使用パターンが異なる場合も「有効」となります。

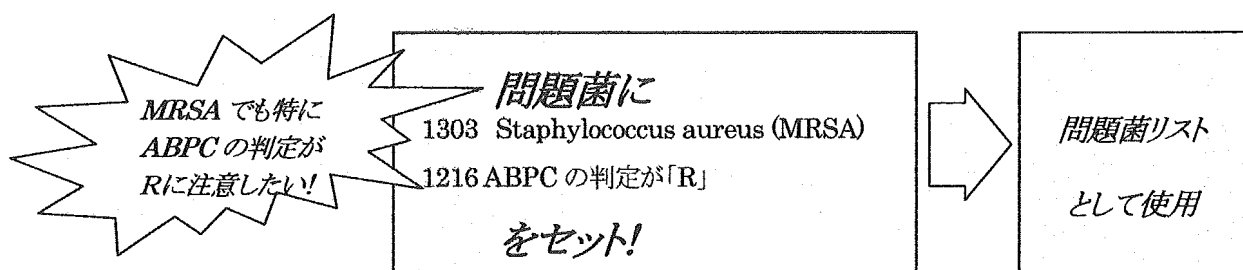


II. 問題菌

問題菌は、特に注意が必要な菌をリストにして保持することで、集計時に常に同じ菌のセットで集計を行うことができます。

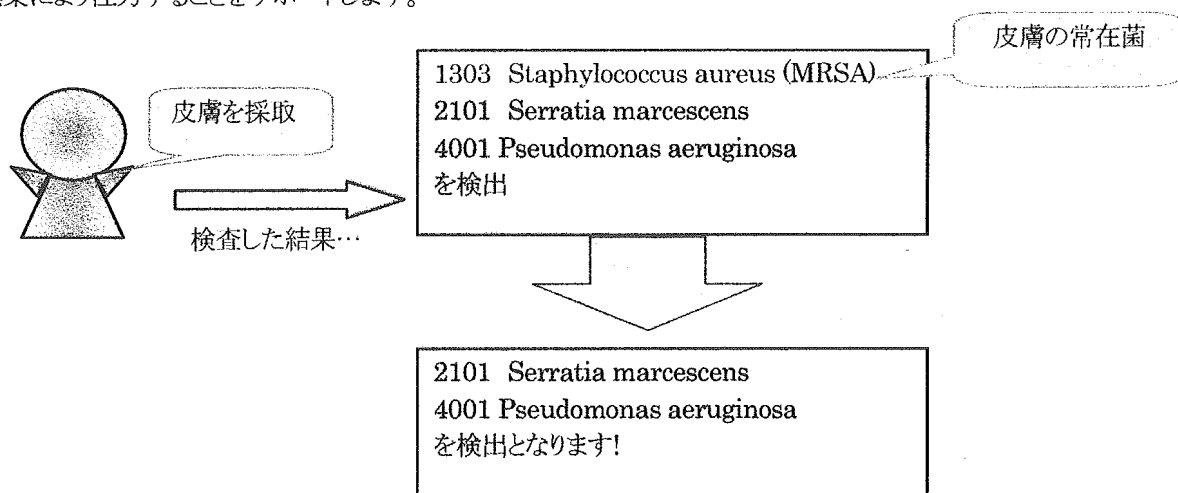


また、抽出条件として菌を選択することと問題菌の大きな違いは、問題菌は薬剤感受性結果を判断することができることです。



III. 常在菌

常在菌は検査材料に常駐している菌で、その検査材料から特定の菌が検出されることは、菌に感染しているとは一概にはいえません。本システムでは、それら常在菌を排除した形で集計を行うことができます。本システムでは常在菌のマスタを保持し、検査材料と菌の組み合わせから常在菌を排除した形で集計を行うことで、菌の感染により注力することをサポートします。



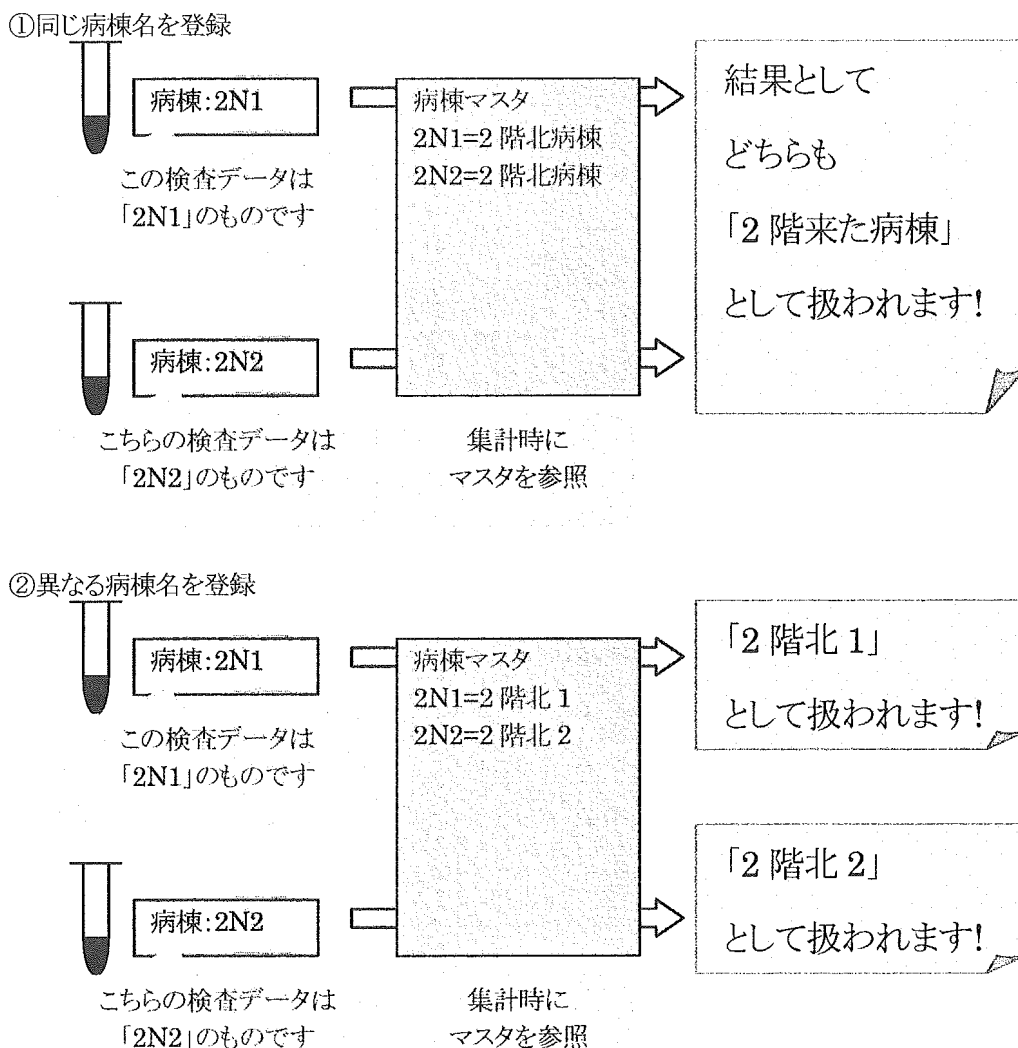
IV. 検査データにおける病棟と診療科の扱い

それぞれの集計において「病棟」と「診療科」の扱いは、他の項目と異なります。

各項目とも「メンテナンス」での内容や、システムが保持するマスタの登録内容により名称を表示したり、有効データを抽出したりしますが、「病棟」「診療科」の扱いが異なる点は、他のマスタと異なり、**同じ名称を複数登録**できる点です。また、登録された複数の名称は**同等に扱われます**。

例えば病棟を例にとった場合…

「2階北病棟」という病棟があるとします。しかし、運用上「2階北病棟」を示す病棟コードが「2N1」と「2N2」の2種類が存在してしまいました。こういった場合、病棟マスタの登録の仕方により、2つの結果を得ることができます。



病棟マスタに「診療科コード」や「ベッド番号」を登録し、それぞれに「同じ病棟名」を登録することで、「同じ病棟」として処理することもできます。病院にあった運用方法を検討してください。

※本扱いは診療科でも同様です。

V. 日付の設定方法

各機能を使用するにあたり、データの抽出期間の設定や集計期間の設定を行う時に、必ずといって良いくらい日付の設定が必要となります。時には「単一日指定」であったり「開始日」のみの指定、あるいは「開始日」「終了日」の指定と2つの指定が必要になります。しかし、それぞれの日付項目の設定方法は共通です。その機能独自の操作がある場合を除き、各機能共通として以下の操作で設定を行ってください。

● カレンダーによる設定

日付項目をダブルクリックすることで、「カレンダー画面」を表示することができます。

「カレンダー画面」で日付を選択し、「決定」ボタンをクリックすることで日付を指定することができます。

「取消」ボタンをクリックすることで、日付の設定をキャンセルできます。

表示対象期間

開始日 2005/09/06

終了日 2005/09/06

開始日～終了日が
解析日
を含む

日付入力欄を
ダブルクリック!



日付を選択してください

2005 9月

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9

年月の移動

選択日 2005/09/06

決定 取消

現在選択されている
「年」「月」の表示

カレンダーの「年」「月」を
選択します。

前の年へ移動

次の年へ移動

前の月へ移動

次の月へ移動

日付を選択してください

2005 9月

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9

年月の移動

選択日 2005/09/06

決定 取消

カレンダー

日付をクリックすることで、選択
することができます。

※2005年9月6日が選択さ
れた状態です。

選択されている日付の表示

- 日付のキーボード入力による設定
日付入力欄をクリック(かタブキーによる移動)し、カーソルを移動します。キーボードより直接入力を行い、日付を指定してください。

日付入力欄をクリックし、
カーソルを日付欄へ移動させます。
その後、キーボードより修正!

※ 日付フォーマット

日付の入力に関しては、以下のフォーマットでの入力が許可されます。入力チェックの後、出力は「YYYY/MM/DD」(例「2006/01/01」)の形式に統一されます。

- ・ 日付型系

基本的に Windows 系「日付型」の入力を受け付けます。

例えば「2006/1/1」や「2006/01/01」「06/1/1」などは許可されます。「1/1」や「01/01」のように月日の指定のみの場合はシステム日付の年が補完されます。またセパレータには「/(スラッシュ)」以外にも「-(ハイフン)」や「 (スペース)」も許されます。半角、全角の区別なく許可されますが「ー」は OK ですが「-」は NG です。また、セパレータに「.(ピリオド)」は許可されていません。

欧米式に「1 2006 jan」といった表記も許可されます。

日本独自の表現としては「H18/1/1」や「平成 18 年 1 月 1 日」「2006 年 1 月 1 日」といった表現は OK ですが、漢数字を交えた表現は NG となります。

- ・ YYYYMMDD 系

8 桁以内の数字は全て許可となります。数値文字列を右から判断し、右から 1~2 桁目を「日」、3~4 桁目を「月」、5~8 桁目を「年」とし、入力の足りない部分はシステム日付より補完します。また、日付として成り立たないような数字も許可されます。

例)システム日付が「2006/1/11」の場合

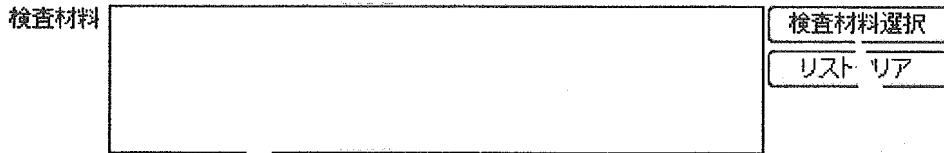
入力	出力	備考
1	2006/01/01	年月を補完
01	2006/01/01	年月を補完
11	2006/01/11	年月を補完
201	2006/02/01	年を補完
1231	2006/12/31	年を補完
60415	2006/04/15	年の不足分を西暦より補完
120061010	2006/10/10	9 桁目以降を無視して日付評価
12345678	1238/10/17	1234 年 56 月 78 日→1234/10/17 と評価
0	2005/12/31	年月を補完、日に 0 を評価→2006/01/00

VI. 抽出条件における「検査材料」「菌」「薬剤」の設定方法

各機能を実行する際のデータ抽出条件の中でも「検査材料」「菌」「薬剤」は複数選択が可能です。選択内容はもちろんのこと、画面の細部に違いはありますが、基本的な操作方法は同様です。

① 選択画面の表示

表示欄をダブルクリックするか「～選択」ボタンをクリックすることで、「選択画面」を表示することができます。例えば「検査材料」の場合、検査材料表示欄をダブルクリックするか「検査材料選択」ボタンをクリックすることで「検査材料選択画面」を表示することができます。

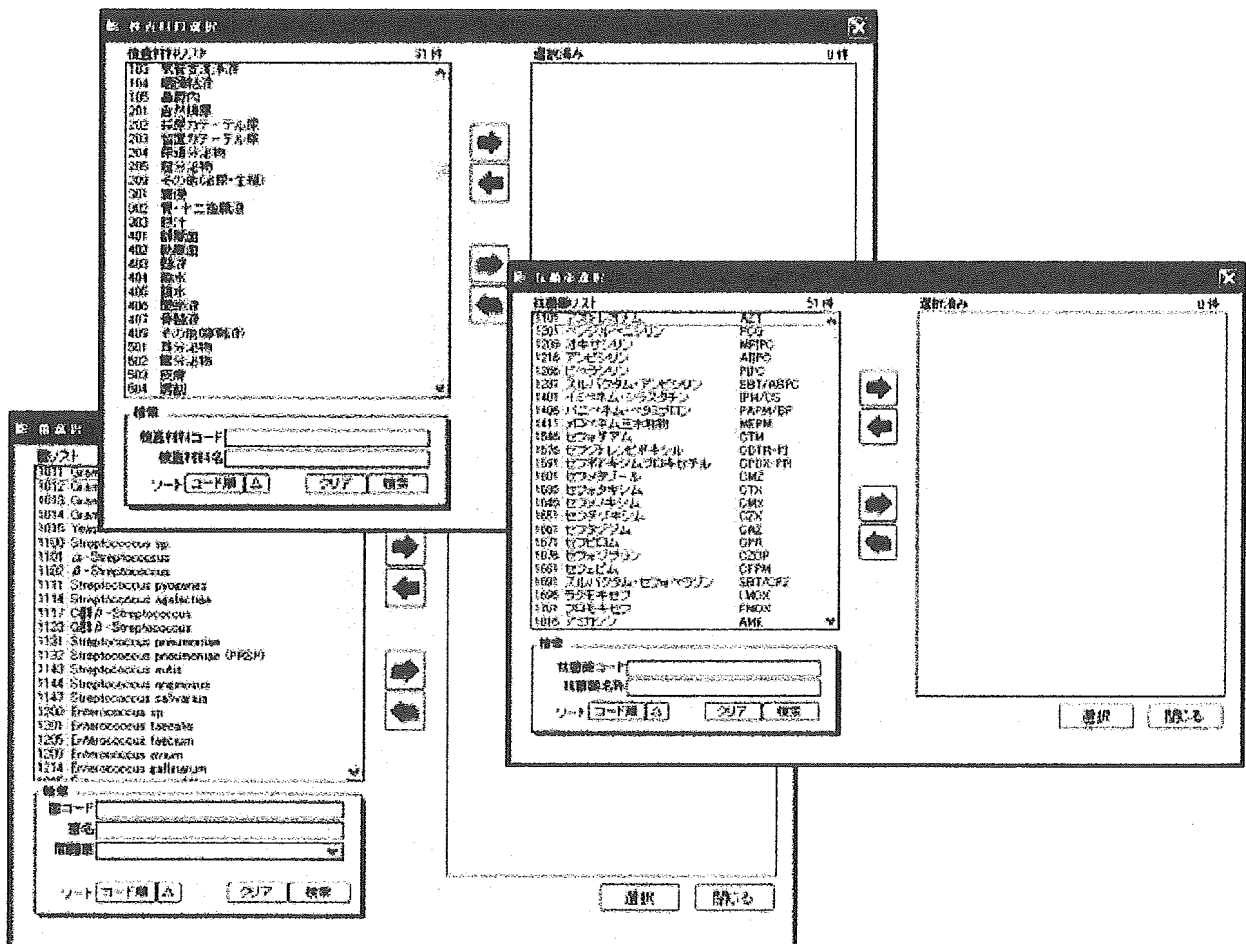


ダブルクリック!

クリック!

② 選択画面

以下が選択画面となります。



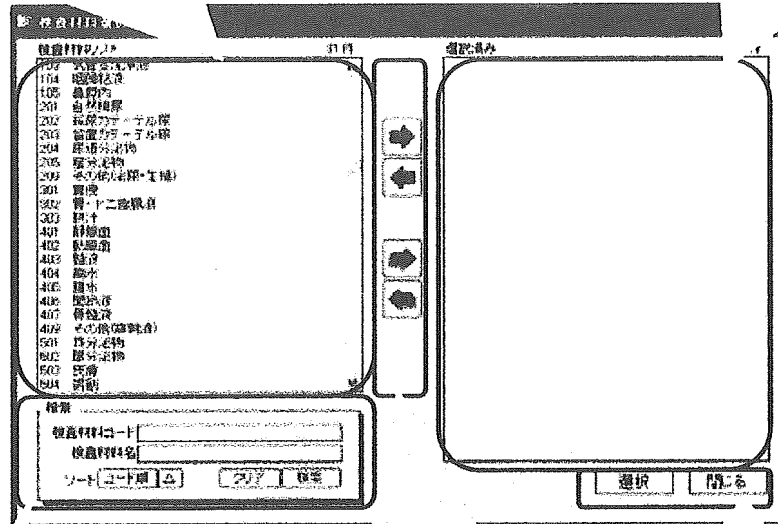
● 画面構成

選択リスト

表示される「コード」「名称」のみ選択可能です。
 検体データ(あるいは菌データ、薬剤データ)に登録のあるもののみ表示されます。

選択済みリスト

画面中央の矢印ボタンで選択されたものの一覧になります。「選択」ボタンクリックで抽出条件設定となります。



矢印ボタン

選択リストから「選択」したり選択済みリストから「消去」したりします。

機能ボタン

「選択」ボタンクリックで「選択済みリスト」の内容を抽出条件に設定します。
 「閉じる」ボタンクリックで設定を行わずに画面を閉じます。

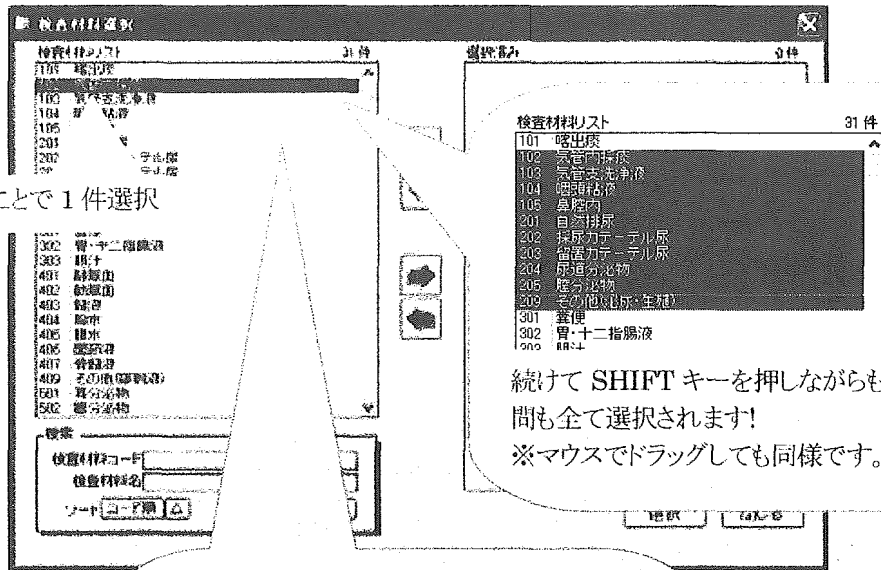
検索機能

選択リストから、条件により絞り込むことができます。

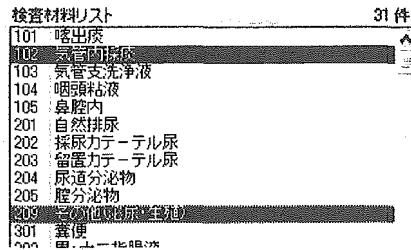
③ 選択済みリストへの移動～設定

まず「選択リスト」から該当するデータを選択します。「選択リスト」「選択済みリスト」とも複数選択可能です。

クリックすることで1件選択



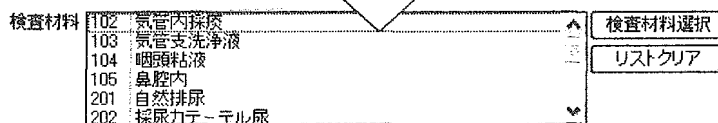
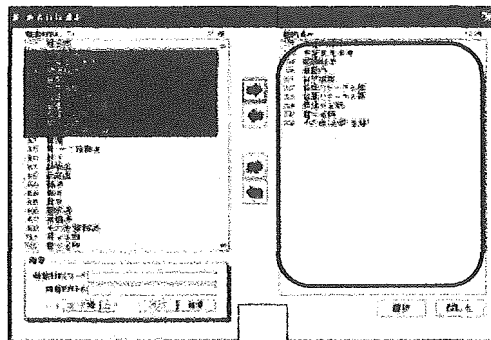
続けて SHIFT キーを押しながらもうひとつ選択すると、その間も全て選択されます!
※マウスでドラッグしても同様です。







Ctrl キーを押しながらもうひとつ選択すると、クリックしたもののみが選択されます。



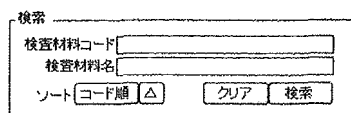
「選択リスト」が選択された状態で、ボタンをクリックすると、「選択済みリスト」に移動します。すでに移動済みのものは重複して「選択済みリスト」に登録されることはありません。「選択済みリスト」に移動した状態で「選択」ボタンをクリックすることで、抽出条件に設定することができます。



● 矢印ボタンの違い

-  「選択リスト」内で選択されたものを「選択済みリスト」へ移動します。
-  「選択済みリスト」内で選択されたものを消去します。
-  「選択リスト」内の全てを「選択済みリスト」へ移動します。
-  「選択済みリスト」内の全てを消去します。

④ 検索機能(検査材料)



「検査材料コード」「検査材料名」に検索条件を入力し、「検索」ボタンをクリックすることで「検査材料リスト」から検索することができます。検索条件にヒットするものがない場合は 0 件の表示となります。

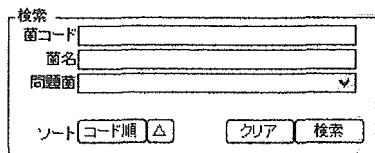
「クリア」ボタンをクリックすることで検索条件を消去できます。

検索条件未入力の状態で「検索」ボタンをクリックすることで、初期状態に戻すことができます。

ソートの「コード順」をクリックすることで「名称順」に変わります。再度クリックで「コード順」に戻ります。同様に「△」ボタンも「△」(昇順)⇄「▼」(降順)をクリックの都度切り替わります。「検索」ボタンクリック時の状態で、ソートがかかり表示されます。

また、検索条件の入力は、スペースで区切る事で OR 検索を行うことができます。

⑤ 検索機能(菌)

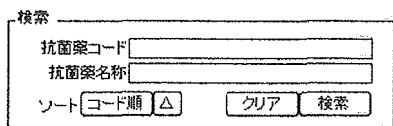


検査材料とほぼ同様ですが、「問題菌リスト」から菌を選択することができます。

抽出条件で「問題菌リスト」を選択する時との違いは、「問題菌リスト」は(設定されていれば)薬剤感受性結果を判定に含める事ができるのに対し、「問題菌リスト」から検索して「菌」に設定した場合は、あくまで「菌」の抽出のみ行われる点です。

抽出条件で「菌」「問題菌」ともに設定した場合は選択された「問題菌リスト」内の菌でさらに「菌」で設定した内容で絞込みとなり、「問題菌リスト」内に「菌」で設定した内容が含まれない場合は必ず対象データが存在しない状態となります。

⑥ 検索機能(薬剤)



検査材料とほぼ同様ですが、名称検索時には「名称」「略称」ともに検索がかかります。